令和５年度　学校評価計画書

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
1	主体的・対話的で深い学びにより、知識・技能、思考力・判断力・表現力を育成する。	①	習熟度別の学習指導を推進し、個に応じた学力の伸長を図る。	各教科 各学年 進路指導課	習熟度別学習指導の効果は、中・下位層には見られるが、上位層にまでは至っていない。	【　成果指標　】 各習熟度において学力が伸長している。	模擬試験の英数国総合偏差値で60以上10%、55以上20%、50以上50%の3つの項目のうち A:　全て達成　B:　2つ達成 C:　1つ達成　D:　達成なし	C以下の場合は、学年及び教科で指導体制を検討する。	1・2年は1月、3年は10月の模擬試験で評価
		②	予習・授業・復習のサイクルを確立し、自律的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学習意欲の高い生徒も一定数いるものの、全体としては学習習慣の定着には至っていない。	【　成果指標　】 学習サイクルが定着し、授業外学習時間が増加している。	進路アンケートで授業外での学習時間が学年＋1時間の生徒の割合が A:　70%以上　B:　60%以上 C:　50%以上　D:　50%未満	C以下の場合は、学年及び教科で指導体制を検討する。	進路アンケートで評価
		③	公務員試験に対応できる幅広い知識と情報処理能力を育成する。	各教科 進路指導課	特定分野で学力が未定着の生徒が見られ、分野ごとの対策が必要である。	【　成果指標　】 個々が苦手分野を克服し、学力が伸長している。	公務員模試でのBランク以上の生徒の割合が A:　60%以上　B:　40%以上 C:　30%以上　D:　30%未満	C以下の場合は、進路指導課及び各教科で取組を検討する。	8月の公務員模試で評価
		④	多角的に考察できる学習課題を精査し、取り組ませることで、思考力を育成する。	各教科 教務課	知識偏重の学習に終始し、論理的かつ批判的に思考するまでには至っていない。	【　成果指標　】 授業を通じて学力（思考力）が身に付いたと実感している。	授業改善アンケート項目⑥「この授業で学力がつく」⑩「友人と意見を共有することにより理解を深めることができる」の評価が A:　90%以上　B:　80%以上 C:　70%以上　D:　70%未満	C以下の場合は、取組を見直す。	生徒による授業改善アンケート（年2回実施）で評価
		⑤	読書を通して、知識や教養を広げ、生き方や社会問題を考えることで深い学びにつなげる。	総務課	ブックトークの活動や、図書館だよりを発行しているものの、図書室の利用率は年々下がっている。また、図書室を利用する生徒は一部の生徒に限られている。 （R3利用率37.3%　R4利用率35.2%）	【　成果指標　】 図書室主催のイベントや探究学習などを通じて図書室の利用率があがる。	図書室主催のイベントや探究学習などを通じて図書室の年間利用率が A:　45%以上　B:　40%以上 C:　35%以上　D:　35%未満	C以下の場合、運営方法を見直す。	図書室のデータから%を算出

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
2	効果的なICT機器の活用法を研究し、各教員の授業力を向上させるとともに、そのノウハウの共有によって学校全体の教育力を高める。	①	GIGA校内研修年間計画に基づいて研修を進める。	GIGA校内研修推進リーダー	生徒1人1台端末を活用した授業の取組がはじまったが、まだ授業への活用に消極的な教員がいる。	【　努力指標　】 教員が1人1台端末を活用した授業が出来る。	授業で5回以上1人1台端末を用いた授業をした教員が A:　80%以上　B:　60%以上 C:　40%以上　D:　40%未満	C以下の場合は取組を見直す。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価
		②	生徒の主体的な学習姿勢を涵養するため、タブレットを用いた授業を推進する。	教務課	ICT機器の活用は進んでいるが、生徒が主体的に端末を学習に活用できているとは言えない。	【　成果指標　】 1人1台端末を活用した授業で、生徒の主体的な学習姿勢が育まれている。	1人1台端末を活用した授業では、主体的に学習しようとする意欲が高まると感じた生徒が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合は取組を見直す。	年2回(7月・12月)の生徒アンケートで評価
		③	ICT機器の活用によりペーパーレス化を図るなどして、業務の効率化を図る。	教務課	校務用ツールの充実は見られるが、系統立てた利用により業務の効率化が進むまでには至っていない。	【　努力指標　】 ICT機器の活用により、教員相互の情報共有による業務の平準化・効率化に努めている。	ICT機器の活用により業務の平準化・効率化が進んだと感じる教員が A:　90%以上　B:　80%以上 C:　70%以上　D:　70%未満	C以下の場合は取組を見直す。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
3	学校行事や部活動、ゆめかな等の活動を通して、円滑な社会生活を送る資質を養い、人間力を育む。	① HR活動や委員会活動を通して、集団における人間力を育む。	生徒指導課 全職員	コロナ禍ではあるが、生徒会を中心に工夫を凝らして学校行事を運営することで、人間力が高まった。今後、さらに活発な意見交換ができるかが重要である。	【　成果指標　】 生徒間で十分な意見交換を行い、組織的に取り組んでいる。	意見交換を行い、協働した取り組みが日常的に出来たと考える生徒の割合が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価
		② 学校行事や部活動における自己目標を明確にして、積極的に取り組む人間力を育む。	生徒指導課 全職員	コロナ禍で学校行事や部活動は様々な制限を受けたが、今後、主体的に取り組んでいけるかが重要である。	【　成果指標　】 主体的に学校行事や部活動に積極的に取り組むことができる。	学校行事や部活動で自己目標を明確にし、積極的に取り組んだと考える生徒の割合が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価
		③ 挨拶、身だしなみ、交通ルール遵守など、社会生活の基盤を身に付ける。また、生徒一人一人が「いじめのない学校づくり」を心がける。	生徒指導課 全職員	挨拶ができる生徒の割合は高く、身だしなみに関して指導を受ける生徒もほとんどいない。学校行事などでいじめのない学校づくりに取り組んでいる。	【　成果指標　】 集団生活における規律を遵守し人間力が向上している。	集団や個々の場面でも、いじめのない学校づくりを意識して規則や規律を守ることが出来た生徒の割合が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価
		④ ボランティア活動や、地域行事への参加を積極的に進め、地域社会の一員として人間力を育む。	生徒会係	コロナに対する意識も変わり、地域行事も行われるようになっており、若い力が求められるようになっている。地域行事への参加などによるボランティア活動に参加してほしい。	【　成果指標　】 学校行事や地域行事に積極的に参加できている。	地域行事やボランティア活動を通して地域に関わろうとする意欲が高まった生徒が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(9月・1月)の生徒アンケートで評価
		⑤ 他者や地域と協働した探究学習を行うことで、学びに対する前向きな心を育む。	ゆめかな担当	授業時数が少ないことやコロナ禍など制約が多い中で、約半数の生徒が「自らが学びの主導権を握り、自律的な学びを進めることができている。」と回答している。	【　満足度指標　】 ゆめかな(「総合的な探究の時間」)をはじめとする探究学習を自律的に進めることができている。	「自らが学びの主導権を握り、自律的な学びを進めることができている。」と回答する生徒が A:　70%以上　B:　60%以上 C:　50%以上　D:　50%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(11月・3月)の生徒アンケートで評価
		⑥ 地域学や、観光ビジネスなどの授業を通して、地域社会との連携を深め、異世代との交流を持つことでコミュニケーション能力を育てる。	ビジネスコース	地域社会の高齢化が進み、いろいろな地域行事が減少し、家庭内でも家族の会話は大変少なくなっている。	【　成果指標　】 異世代との交流を持つことでコミュニケーション能力を高めることができる。	異世代の方との交流を深めることで、コミュニケーション能力を高めることが出来たと思う生徒の割合が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(9月・1月)の生徒アンケートで評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
4	地元中学校や地域社会と連携した取組により、中高6年間を見通した生徒の成長を図る。	①	各教科の授業や探究学習において地元小・中学校との接続・連携を推進する。	教務課	コロナ禍により、地元小中学校と連携する回数は極端に減っている。	【　努力指標　】 各教科の授業や探究学習において地元小・中学校と連携した学びの場・時間を創出している。	地元小中学校と連携した授業回数が A:　10回以上　B:　5回以上 C:　3回以上　D:　3回未満	C以下の場合は指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の教員アンケートで評価
		②	金沢大学能登学舎やNPO法人ガクソーなど地元外部機関との連携を強化する。	ゆめかな担当	ゆめかな(「総合的な探究の時間」)で部分的な支援を受けられてはいるものの、体系的な支援関係を構築できていない。	【　成果指標　】 生徒たちが外部の方々と協働しながら探究学習を進めている。	金沢大学能登学舎(市内三崎町)・NPO法人ガクソー(市内飯田町)・探究ルーム(校内、外部の方が滞在しているとき)を利用した生徒の延べ人数が A:　100名以上　B:　75名以上 C:　50名以上　D:　50名未満	C以下の場合は指導方法を見直す。	年度末に延べ人数を集計して評価
		③	地元産業に貢献する人材育成のため企業見学会や講演会を実施する。	進路指導課	地元企業に対する知識が不足しており、卒業直後だけでなく、進学後も地元就職を希望する生徒が少ない。	【　成果指標　】 地元企業への理解を深め、地元への貢献意欲が高まっている。	地元への興味・関心や貢献意欲が高まった生徒が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合は指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケート(2年ビジネスコース対象)で評価
		④	部活動で身につけた技術を活かし、小中学校との交流を行い、地域に貢献できる人材を育成する。	生徒会係	コロナ禍により中学校との合同練習などもなくなっている。	【　成果指標　】 部活動で身に着けた技術を活かし、小中学校の児童生徒達との交流を進め地域貢献意欲が高まった。	小中学校との交流行事を通して地域貢献意欲が高まった生徒が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合は指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケート(2年ビジネスコース対象)で評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
5	教職員自らが効率的な業務や指導法の改善に努め、ワークライフバランスを実現する。	①	若手教員早期育成プログラムの推進と併せ、研究授業や互見授業により授業改善を図る。	総務課	若手教員の割合が高く、生徒の進路実現に向けた授業力向上が求められる。	【　成果指標　】 様々な校内研修を通じて、教員として成長できたと感じられる。	教員として成長できたと感じられる。 (ア)よくあてはまる　(イ)あてはまる (ウ)あまりあてはまらない　(エ)あてはまらない (ア)が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年間2回(9月・1月)の教員アンケートで評価
		②	授業改善アンケートの結果をもとに授業改善を図り，分かりやすい授業を展開する。	各教科 教務課	学力の二極化が進み、習熟度別学習指導はもとより授業力の改善が求められている。	【成果指標】 授業が分かりやすく、学習に意欲的な生徒が増加している。	授業が分かりやすいと感じた生徒が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合は取組を見直す。	生徒による授業改善アンケート(年2回実施)で評価
		③	研修などを通してカウンセリングマインドを涵養し、多様な生徒への指導力を高める。	保健厚生課	学習や人間関係に不安を感じ、教室に入れなかったり不登校となる生徒が増加している。	【　成果指標　】 研修会で得た生徒理解のための知識や方法を実践しようとしている。	研修会で得た知識などを実践しようとしている教員が A:　80%以上　B:　70%以上 C:　60%以上　D:　60%未満	C以下の場合は取組を見直す。	研修会後のアンケートで評価